

民主島根

2017年
3.12
第1283号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

田村^{参院議員} 迎えて松江・出雲で党演説会 市議選勝利、衆院選での党躍進を 垣内^{衆院比}、岩田・むこせ^{衆院選}ら750人に訴え

日本共産党の田村智子副委員長・参院議員と垣内京美衆院中国比例予定候補を迎えた演説会が5日、松江と出雲両市で開かれ、4月の市議選と出雲町議選、衆院選での党躍進へ、会場は熱気に包まれました。

共闘の前進を 民進・社民代表も訴え

出雲市では、民進党県連の和田章一朗代表（県議）が「力を合わせて安倍政権の暴走をストップさせなければならぬ」と発言し、松江市では、社民党県連合の山本誉副代表（県議）が「政治の無法を許さない体制をつくろう」と野党共闘を前進させる決意を示しました。

田村氏は、森友学園疑惑に関して、調査を拒否し続ける安倍首相の態度を「無償に近い国有地売却などあり得ない。徹底的に調査すべきだ」と厳しく批判。総選挙で安倍政権を退陣に追い込むため、「憲法を土台にして市民と野党が手を結ぶこと



4月の選挙戦と衆院選での勝利を呼びかける田村副委員長（松江テルサ）

田村副委員長の訴えに、熱心に耳を傾ける参加者（出雲・朱鷺会館）

大國県議の一般質問

自衛隊「職場体験」見直しを

大國県議は、自衛隊での職場体験に県内の中学17校、高校3校の計81人が参加し、軽装甲車の試乗や隊員作業着の試着体験が行われていると指摘。「戦闘を想起させる体験は、心身の発達段階にある中高生の教育として相応しいのか見直す必要がある」と迫りました。鴨木朗教育長は「各学校の責任で実施されたものだが、戦闘



を想起させる活動には慎重な検討が必要。今後適切に実施したい」と答えた。尾村利成県議は3日、一問一答質問に立ち、県知事や県執行部をたどしました。

2月県議会の論戦から

日本共産党の大國陽介県議は2月24日、一般質問に、尾村利成県議は3日、一問一答質問に立ち、県知事や県執行部をたどしました。

びかけました。岩田たけし衆院島根1区予定候補、むこせ慎一同志2区予定候補が安倍政権打倒を力強く訴え、4月の松江市議選と出雲市議選、奥出雲町議選をたたかう各予定候補が決意を述べました。

尾村県議の「一問一答」

点数競争の学力テスト中止を

鴨木朗教育長は、2016年度の全国学力テストに参加した公立小中学校299校のうち57校（小学49校、中学8校）がテスト直前の4月に授業時間を使い、過去問題や類似問題を解かせていた調査結果を明らかにしました。昨年11月議会でも尾村県議が実態を指摘し、市町村教委に調査を要求していたもの。



尾村氏は「点数競争を上げるための直前対策はやってはならない」と文科省も県教委も通知を出し、現場の教員もやってはいけないと言っている。誰が授業時間を使ったのか原図を指示したのか原因究明すべきだ」と迫りました。鴨木教育長は「直前対策と受け止められかねない対応が相当数あるのは遺憾。行き過ぎた対応であり、実態把握に努める」と答弁。尾村氏は「完全に点数競争になっている」と批判し、学力テストの中止を強く求めました。（2面に続く）



松江市長選で市民と野党共闘を 市民団体が共産、民進、社民に申し入れ

4月9日告示の松江市長選に向けて、市民の共闘組織として結成された「私たちがつくる松江の会準備会」（山崎泰子代表）は2日、日本共産党、民進党、社民党を訪ね、松浦正敬市長に対抗し、市民と野党の共闘でたたかうよう申し入れました。（写真）

同会は松浦市長の政治姿勢について島根原発の再稼働容認や国保料値上げなど市民の命とくらしを守る自治体の長としての意図が一致し結成。後藤勝彦県委員長は「要請を誠実に受け止め、市民、野党のみなさんと力を合わせて市長選にのぞみたい」と答えました。

鼓動

「このスキャンダルは、安倍政権が崩壊する可能性がある。共産党が相当のところまで事実を掴んでいるという噂もあるので、われわれは赤旗を取りたくなってきた。共産党よ、徹底的に暴いてくれ！」（漫画家・小林よしのり氏のブログより）▼森友学園に対する異常で奇怪な国有地の安価での払い下げの問題に、国民の熱い視線が注がれ、怒りが沸騰している。「庶民は食べるのも大変なのに、国有地を何億円も安く売り払うなんて」「共産党の小池議員はすごい。1回の質問で情勢を一変させた」。こんな声が次々に寄せられている▼安倍首相夫妻の道義的責任が問われている。森友学園の籠池理事長が金品をもって国有地の値引きを迫るような、教育者としてあるまじき人物なのに、首相夫妻が同学園を天まで持ち上げていた責任。そして、教育勅語を暗唱させ、「安倍首相ががんばれ！」の「宣誓」までさせる。教育基本法に照らして、許されない教育を美化してきた責任。今後の国会論戦に注目したい▼教育勅語は戦前、「天皇のために命を投げ出す」思想を若者たちにたたき込み、戦争に駆り出すために使われた。籠池理事長は、侵略戦争を美化する極右思想の団体「日本会議」の幹部。安倍首相も含め、安倍政権の閣僚のほとんどが「日本会議」のメンバーだ▼今回の問題で、安倍政権のめざす国のあり方に不安を感じ始めた人も少なくない。「安倍政権のこんな政治でいいのか」「保守のみなさん、自民党員のみなさんとも、今こそ語り合ってみよう」（後）

尾村県議の質問(続き)

島根 活断層の運動性精査を

尾村県議は、政府の地震調査研究推進本部が2月21日、宍道断層をマグニチュード7級以上の大地震を起こす可能性がある「主要活断層帯」に追加し、宍道断層が国の重点調査対象になったことを示しながら「宍道断層のさらなる延長、鳥取沖西部断層・東部断層との運動する可能性を精査すべき」と迫りました。

岸川慎一防災部長は昨年7月、推進本部が公表した活断層の長期評価について「宍道断層の東端

よりさらに東側に活断層の可能性があると述べている」と述べ、「運動性を含

格差と貧困の是正措置を

国保や介護保険の未納者が社会保障制度から排除されている実態を質した尾村県議は「国保の都道府県化で保険料は上がり、何の手も打たなければ滞納者は増加する。県として法定外支出金を拠出すべき」と迫りました。

藤間博之健康福祉部長は「利用抑制はあつてはならない。国保や介護保

大田県議の質問(続き)

介護サービス利用実態調査を

国の社会保障削減路線のもとで、年金や生活保護、介護保険など、あらゆる社会保障制度が縮小されています。

大田県議は県内でも介護サービスの利用負担が大きいために、必要なサービス利用を我慢しているケースがあると指摘。

「介護認定を受けながらサービスの利用が少ない人、サービス利用料の上限を超えて利用している人の生活状況など介護サービスの利用実態を調査すべき」と要求しました。

藤間健康福祉部長は「生計が厳しい世帯が増加していると認識してい

就学援助制度の改善を

大田県議は、国の新年度予算案で「要保護世帯」の就学援助費のうち新入学児童生徒の入学準備金が約2倍に引き上げられることについて、「体操服や算数セットなどの学用品費で約4万円の負担が必要。制度改定で、小学校で4万6000円、中学校で4万7400円と、今より金額が2倍になるとは言え、他にもランドセルや制服などの購入もあり、全

変えるべきは憲法違反の政治

個人の尊厳守るため、たたかい抜く

国会活動の合間をぬって、映画「未来を花束にして」を観に行きました。

1912年のロンドンが舞台で、「女性たちに参政権を」と求めてたたか



大平よしのぶ 衆議院議員

アツク
やさしく



まるかと報道されています。

私たちは、国民は改憲を望んでおらず、改憲のための憲法審査会は開催する必要がないとの立場でぞんざいします。しかし、それでも開かれるのであれば、審査会に出席して、現行憲法の価値や、変えるべきは憲法ではなく、憲法違反を続ける政治だということ堂々と論戦していきたいと思えます。

自民党が提案しようとしている最初の議題テーマは「参政権」とも言われています。

「サフラジェット」の意思に学び、個人の尊厳を踏みしめる政治は、絶対に許さないという気概でたたかいぬかねば…。

(写真は、「ゆきとどいた教育を求める全国署名提出集会」であいさつする大平衆議院議員) 2月26日、衆院第1議員会館)

今では当たり前前の女性の参政権―人間としての当然の平等の権利が、ほんの100年前(日本ではもっと最近)まで、「感情の起伏が激しい女性は、政治を判断するのに向いていない」などと言われて、奪われ続けていた、その屈辱をリアルに追体験しました。

「将来生まれる少女たちが、兄や弟と同じ機会を持つためのために闘うのです」と訴えたリーダーの言葉や、止むに止まれぬ思いでたたかいた立ち上がるも幾多の困難にぶつ

かり、つらく苦しい日々が続いている姿に、何度も涙がこぼれ落ちました。

そして、改めて、いま自分は彼女たちが命をかけて勝ち取った参政権の獲得にこたえる活動ができていないだろうか、と突き付けられた思いもしました。

私も所属する憲法審査会が、3月からいよいよ始

め、今後情報提供を通じて、適切な事務処理を促していきたい」と答えました。

出雲ガス献金問題について

出雲市が出資する「出雲ガス」が自民党出雲市第二支部へ献金していた問題で、大田県議は、県出資の団体や県が補助金を交付した団体などで違法性が疑われる政治献金について調査するよう求めました。

政治資金規正法は、自治体から出資などを受け法人がその自治体の首



松江 原発金曜日行動 200回目

松江市の県庁前で3日、200回目の金曜日行動が行われ、18人が参加しました。リレートークで県議会を傍聴してきた女性らは「宍道断層が『主要活断層帯』に追加されたことを初めて知った。島根原発の再稼働は許せない」と訴

え。参加者は「再稼働反対、原発ゼロだ」とコールしながら中電ルシながら中電島根支社までパレード。(写真) 同実行委の山崎泰子さんは「宍道断層が他の活断層とも繋がっているとなれば142キロの長さになる。直ちに廃炉を」と訴えました。